

将来の成長に向けたシナリオ づくりについて

平成20年12月26日
二階議員提出資料

プロジェクトの検討例（環境エネルギー分野）

ステップ

目指すべき
将来社会

目指すべき将来像

- (1) 家庭、ハイウェイ、学校等、あらゆる場所に蓄電池と太陽光発電を配備
- (2) 家庭で太陽光で発電し、電気自動車等に貯蔵するライフスタイル。
- (3) 渋滞のないスムーズな交通流で、エコ・カーがその能力を遺憾なく発揮する
「低炭素モビリティ社会」
- (4) 2020年までに、輸送部門の温室効果ガスを2005年度比 16.5%。

ボトルネック

- (1) 蓄電池、太陽電池の性能が不十分
- (2) 景気の急激な後退で、自動車会社は苦境に。
メーカーのみの省エネ努力は限界
- (3) 世界不況・円高で、自動車の外需は縮小。
新たな国内自動車市場の開拓が必要に。

対策

- (1) 蓄電池・ITS等の技術開発の国家プロジェクト
- (2) 交通流対策
環状道路整備、交差点改良、踏切対策、
自転車利用環境整備、次世代ITSの推進
- (3) 電気自動車普及のための各種制度・規格

ステップ

「J」字回復

成長持続効果

- (1) エコ・カー市場の開拓・競争力強化
- (2) 既存の交通インフラの交通流の改善により低燃費車の省エネ効果は増大
平均速度1km/時向上→燃費約1%向上
(東京:18.8 km/時、ロンドン:30 km/時)
- (3) 物流の効率化は、経済成長力や産業競争力を飛躍的に増大
- (4) ITSの推進は、輸送部門におけるIT市場を新たに創出。

ITによる自動運転・隊列走行のイメージ

持続的成長

景気浮揚効果

- (1) 環境エネルギーインフラの整備により、経済効果が大きく、即効性もある投資を目指す。
- (2) 官民プロジェクトにより、技術開発・環境エネルギー投資を促進。

→内需拡大・雇用創出と同時に将来の成長に向けた布石を打つ。

ステップ

景気反転

景気浮揚

